

平成30年度 第2回 甲賀市環境審議会 議事摘録

開催日時 平成31年3月8日(金) 10:00~12:00

開催場所 甲賀市役所4階 会議室402

出席委員(敬称略)

竺文彦(会長)、中島仁史(委員)、小林晶子(委員)、石山利則(委員)、
水野修(委員)、明石達郎(委員)、小倉剛(委員)、高橋美香(委員)、
8名

欠席委員(敬称略)

なし

事務局(敬称略)

岡根部長(市民環境部)、藤村次長(市民環境部)、中島課長(生活環境課)、
伊東課長補佐(生活環境課)、山本係長(生活環境課)、西尾係長(生活環
境課)、植西主査(生活環境課) 7名

会議次第

1 市民憲章唱和

2 あいさつ

3 審議事項

(1) 第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業について【資料1】

(2) 第3次甲賀市一般廃棄物処理基本計画の策定方針について

【資料2】

4 次回(平成31年度第1回)審議会の開催について

平成31年8月頃開催予定

5 その他

配布資料

資料1 第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業について

資料2 第3次甲賀市一般廃棄物処理基本計画の策定方針について

会議内容

○開会

1 市民憲章唱和

2 あいさつ

3 審議事項（これより進行は会長）

（委員）

- ・第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業について事務局の説明を求める。

（事務局）

- ・〔資料1「第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業について」に沿って説明〕

（委員）

- ・資料1について、質問や提案はあるか。

（委員）

- ・P4、生ごみ堆肥化事業について、平成30年度も31年度もあまり変わらないようであるが、費用対効果は生まれているのか。

（事務局）

- ・生ごみの数字で見ると、平成29年度で9,051世帯加入しており、数は微増となっている。回収量は平成26年度で1,719トン、平成29年度で1,359トンで減ってきているが、これは分けなければ焼却されていた量である。衛生センターはほぼ24時間100%の稼働で燃やしている。もしこの事業を止めた場合、衛生センターの焼却がかなり厳しくなると聞いている。

- ・生ごみにかかる経費は年間約2億円、効果としては推計ではあるがCO2がその分抑えられている。環境はお金がかかることが多いので、費用がかかっているという意見もいただいている。

（委員）

- ・水質の調査について、156万はどこに使われるのか。

（事務局）

- ・自動車騒音の観測と河川の緊急調査費用である。

(委員)

- ・県でも調査しているのか。

(委員)

- ・県でも環境基準点で調査している。大気も自動測定局を持っている。

(委員)

- ・県の調査で補完できると考えていいのか。

(事務局)

- ・横田橋の付近で県が調査してくれているが、それ以上の安心のために詳細調査をしている。現段階で確約はできないが、全く調査しないということではなく、隔年等で検討している。

(委員)

- ・市の姿勢に関わる気がする。調査しないのは恥ずかしいのではないかと。調査対象をしぼってでもすべきである。
- ・環境報告書について、水質と大気について書いてあるが、自然環境を入れて市の環境状況がわかるものを作成したほうがよいのでは。環境についての取り組みで、市のレベルが表れると思う。

(事務局)

- ・前回会議でも自然環境やレッドリスト等の意見をいただいている。来年度自動車騒音等も内容に入れようと考えている。

(委員)

- ・自然環境が載っていないのはなぜか。

(事務局)

- ・推測ではあるが、生活環境課が携わっている部分しか載っていないのではないかと。担当他課と連携すればできると思われる。

(委員)

- ・行政は「まるごと」がキーワード。横断的なつながりをもってもらわないといけない。

(委員)

・甲賀市の良さをPRしないと移住してきてもらえない。鳥や虫の鳴き声の聞こえる市として環境と併せてのPRをすべき。

(委員)

・単なる報告書だけではなく、自然をアピールすることで人を呼び込むという観点は今までなかった。

(委員)

・人や自然の持つ力を、新エネルギーとして進化できないか、甲賀市にあるものを常に探している。

(委員)

・実現方法を考える必要がある。

(委員)

・森林のP3新規事業、緑化事業について、全体を見回すところに環境監視事業の予算を取られた感じがする。

・緑化の先どうするのか見えてこない。材木を使うように社会をシフトする必要がある。今は間伐材が倒れっぱなしである。

・自動車の普及後に花粉症という症状が出てきたように思う。NO_x、SO_xと花粉がくっついて花粉症になっているのではと疑っている。緑化をするのであれば、その先に何をするのか考えるべき。運動ばかりしてもやりっぱなしになるのではダメである。

・間伐材等を利用したバイオプラスチックができれば、マイクロプラスチックの影響がでていると言われる琵琶湖のためにもなる。

・ひなたに捨てられたごみ袋の劣化により、回収不可能になったプラスチック成分を懸念している。

(委員)

・マイクロプラスチックはストローがどうかという単純なことでない。生活に根付いているプラスチックを考えなおすというなら、工業界産業界含め日本が根本的に考えなおさないとならない。

(委員)

・横断的に連携してもらえないのは予算が縦割りであるからである。

(委員)

・行政の仕組みの基本的な問題であるが、環境問題は全部横につながっているので、本当は環境担当課がトータルにコントロールできる位置にあるべき。

(事務局)

・縦割りを少しでも払拭しようと、資料1は横断的に他課にも協力してもらっている。今後これを深めていけたらと思っている。

(委員)

・環境報告書も横断的にすべき。

(委員)

・植樹祭の予算は今までの予算の上にもらえるのか、元々の予算の中やりくりしてやるのか。

(委員)

・子どもたちの環境学習であるグリーンジャンボリーの分も入っているのではないか。

(委員)

・資料には開催気運の醸成等としか書かれていない。もっと具体的に書いてはどうか。

(委員)

・前出の意見は植樹祭も必要であろうが、祭りのためだけでなく、市民に役立つことを考えて予算を使って欲しいという意味ではないか。

(委員)

・他のまちの植樹祭跡はさびしいものであった。皆が集まれる場所になればよいが。

(委員)

・今も活用されているところもある。

(委員)

・忍び関係のものを置いたほうが人が集まるのではないか。

(委員)

・観測は継続に価値があり、事故が発生したときに初めて役に立つ。実績を積んでおくこと

が大切である。限りある予算の中、事業の重要度を付けるなど工夫が必要だ。

- ・第3次甲賀市一般廃棄物処理基本計画の策定方針について、事務局の説明を求める。

(事務局)

- ・〔資料2「第3次甲賀市一般廃棄物処理基本計画の策定方針について」に沿って説明〕

(委員)

・建設残土の取り扱いについて、法律で縛りがないので行政も手を出せない。ある市では条例があり、条例がある市には持ち込まれない。国立競技場の建設残土が他県で問題になっているので条例を作ってはどうか。農地の一時転用等で残土が入っていたとしても、市は何も言えない。県下一の耕作放棄地があるので、気をつけなくてはならない。

(委員)

・ドイツなどでは産業廃棄物、一般廃棄物という区分けはないが、日本は廃棄物を分けている。産業廃棄物は市が入れないので、警察が入らないとどうしようもない。
・滋賀県でも西部で問題になっている。適切で問題のない状態で処分する必要がある。うちの地域に来るのは嫌だとなすりつけ合いをすると、弱い立場のところへ行ってしまう。
・自分達の環境を守るという意味では、一般よりレベルの高いところで条例を作る必要がある。

(事務局)

- ・県内では大津に条例があるのでは。

(委員)

- ・条例がないと全く手が出せない。土を掘ってごみが出てきたらやっとながが対処できる。

(委員)

- ・親族の建設業従事者の話では、不法投棄のせいで問題のない投棄に関しても反対が出る。
・いつまでに生ごみは全て堆肥化にしてしまおうという目標を立てて欲しい。

(委員)

・日本の今のごみ処理法は間違っている。昔は厚生省が管轄していて、衛生的に処理するために焼却炉が推奨された。世界一とも言われる焼却炉数であるが、全部燃やすのは今の時代にあっていない。
・生ごみは水分が90%で、それを焼却するということは火に水をかけているようなもの。市は新たな焼却炉を作らず、焼却エネルギーを使った発電所を民間業者に作ってもらった

らよい。

・ドイツはメタン発酵に水分の多いごみを使っている。廃液も出るが、リン・窒素を豊富に含むので液肥として畑にまいている。日本では水田耕作が多くそれが出来ないので、廃液は処理するしかない。

・甲賀市は生ごみ堆肥化ではパイオニアである。面積は必要だが、処理コストは焼却より堆肥化のほうが安い。回収コストについては、現状は燃えるごみに上乘せして回収している状態なのでコスト高だが、収集体制に組み込んでしまえばそんなにかからない。専用の収集器でなくパッカー車を利用すればよい。

・日本で唯一、生ごみを完全リサイクルすると押し出し、見学者を募れるくらいになればよいと思っている。

(委員)

・市民は環境に対して理解がある。環境こだわり農産物は甲賀市で水田では7割がしているが、他市は3～4割程度。琵琶湖に面していないのに関心が高い。投げかけをすれば返ってくるのではないかと。

(委員)

・細かい計算ができていないと感じる。コスト計算をもっとして、オープンにしたほうがよい。

(委員)

・数字を出したほうが理解は得られる。

(委員)

・収集量が減っている理由の分析、人口減少の想定、数字で検討すべき。

(委員)

・テレビ番組の中で、生ごみが減りプラが増えているのは、家庭で調理する機会が減っているのではないかと推測していた。

(委員)

・包丁のない家庭があるというのも聞く。再生できるのが1番だが、プラスチックは焼却するのがよいと感じている。混合プラスチックなどは再利用しづらい。

(委員)

・昔はカーボン紙を分別していたが、毒性の強いカーボンの焼却問題はどうか。

(委員)

・PCBを使っていた時代は危なかったが、今は使っていないので分別しなくても大丈夫。

(委員)

・ペットボトルのリサイクルを厳密にやっている業者や、試験的にエタノール化している業者もある。将来燃やすものが減るかもしれない。発電がよいのか、色々な選択がある。ペットボトルは都市油田と言っている廃棄物業者もある。

(委員)

・これからは、焼却炉は発電施設がないと補助金がもらえない。

(事務局)

・計画を策定していくにあたっては、企業や家庭での取り組みも検討材料とし、数字を出さなければ説得力が生まれないという意見もいただいたので、専門家の意見も聞きながら4月から検討していく。

(委員)

・計画期間について、9年間では世の中が大きく変わるので長いのではないかと。職員も大分変わる。

(委員)

・行政計画は10年くらいが多く、5年目くらいで見直しをするのが通例。

(事務局)

・市民生活に大きく関わる計画なので、急に収集方法を変えたりできない。今回も、5年目で軌道修正すればどうかと思う。

(事務局)

・総合計画も市長任期にあわせるようになった。他の計画とも整合性をとる。

(委員)

・忍びの術でゴミを減らしますなど、面白いものをしてはどうか。

(委員)

・ニンニン環境大使やラッピング自転車など、子ども向けの回収方法を提案しては。

(委員)

- ・子どもにもわかるようなものを盛り込んだほうがよい。

(委員)

- ・缶回収でポイントがもらえる機械など、子ども目線の回収方法はどうか。
- ・建設中のまちづくりセンターで環境学習をしては。学校で教えてくれないことを教えてあげられる環境を。

(委員)

- ・災害廃棄物は盛り込むと、ボリューム的にしんどいのではないか。第2次から内容を少し変えるというものでなく、地球温暖化など環境視点を盛り込んでどうか。新しいものを考える必要がある。

(事務局)

- ・災害廃棄物を別冊にするのは予算規模的に難しいかもしれないが、出来るだけの検討は必要と考えている。仕様書の内容を検討する。調査を先行させ、計画化を少し遅らせることも方法としてはある。

(委員)

- ・災害廃棄物に基準はあるのか。

(事務局)

- ・風水害であれば、風速が何時間続いたかなどで補助金をもらう基準があるが、市独自の判断で、基準外であっても回収することはあり得る。

(委員)

- ・激甚災害に認定されないといけないのか。

(事務局)

- ・災害廃棄物の定義も書くことになると思うが、細かい線引きをすると市民が困る結果になる可能性もある。

(委員)

- ・昔なら、木材は一箇所に集めて燃やしていたが今はできない。

(委員)

・出前講座が何年も行われていない。啓発事業を考えていただけないか。人員が確保できないなら、文書でもいいので堆肥化の目標をだしてもらえないか。

(事務局)

・生ごみは地域によって温度差がある。毎年講座に行っている地域もあれば、初めて聞くと言われる地域もある。現在、加入率の少ない地域に働きかけ、講座を開催できるように動いている案件がある。

(委員)

・2つの議案は意見がつくされたものとするが、他に意見は。

(委員)

・夏期の道路傍の除草について、林道は刈り倒しになっているが市道は刈った草を業者が持って行っている。何故なのか。

(事務局)

・リサイクルに回している分と焼却している分があると認識している。

(委員)

・業者に持って行ってもらうにはお金がかかる。燃料と考えるなら、市の焼却炉に持って行ったほうがいいのか。

(事務局)

・除草を発注するときに指導の仕方を考えていかなければならない。

(委員)

・市民にも環境意識の強い人はいる。行政は予算削減の方向であり、今後は市に何かをやってもらう時代ではなくなってくる。市民が行政と協働できるようにならなければいけない。そのためにも、生活環境課がまとめてもらって市民の力を引き出す事が大切である。

・次回開催時期について事務局より提案を。

(事務局)

・次回審議会は平成31年8月予定で開催。

・閉会挨拶

○閉会